

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング  
【施策番号 24015 : 観測・予測研究領域 (文部科学省)】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 10 日 14:00 ~ 14:30
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第三特別会議室
- 3 聴取者：白石議員、奥村議員、大石審議官、廣木参事官  
外部専門家 7 名 (うち若手 2 名)
- 4 説明者：鈴木 地震・防災研究課長
- 5 施策概要

自然災害による被害を軽減するため分野間の連携を図りながら、地震・火山噴火や局地的豪雨など極端気象災害等を観測・予測する技術の研究開発を推進する。

6 質疑応答模様

【白石議員】今年度までの施策と新規に始まる施策の違いは何か？局地的豪雨に関する研究は気象庁からも出されているが、連携しているのか？

【文科省】防災科研の第 3 期中期計画が来年度から開始するにあたり、これまで地震や火山、風水害など災害の種類別に取り組んできた研究プロジェクトを防災に関して解決すべき課題別にまとめるよう再編成した。これにより、雨量を観測するために培ったレーダ観測技術を火山灰の観測にも応用するなど研究資源を柔軟に活用することを目指す。極端気象災害の研究については、今年度から新しく始まった振興調整費で防災科研を代表機関とした課題が採択され、気象庁と連携して行っている研究があるが、そこでは雲が発達して雨ができた段階以降の状態を対象に研究を行っている。それに対し、本事業では、雨が降り始める前の雲の段階について研究を行う予定である。

【外部専門家】JAMSTEC が行っている海底の掘削調査や地震計アレイのプロジェクトと連携して、どういうふうに知見を深めていくのか教えて欲しい。

【文科省】地震研究の進め方については、地震調査研究推進本部がとりまとめを行っている。その中で陸上での観測を防災科研が、海底での観測を JAMSTEC が行っている。例えば JAMSTEC が取得した海底地震計などのデータは防災科研に集約した後に大学等へ公開するなど連携して研究を行っている。

【奥村議員】これは 5 年間で 200 億円の事業であるが、個票には研究成果の羅列が多い。もっと政策的・施策的な成果目標をきちんと出してもらう必要がある。来年度は 32 億であるが、研究費は 3.7 億で大半の予算は、観測網の経費 27 億となっており、この事業は、観測網をこの予算で運用するという理解でよいのか？

【文科省】新たに観測網を整備する部分と、阪神淡路大震災後に整備された 1900 点の地震観測網の中で老朽化したものを更新していくものが含まれる。我が国の地震研究を支える、貴重な地震データを提供するものとして計上している。

【奥村議員】それが悪いと言っているのではなく、そういった維持管理があってこそ研究ができるということを明示すべき。研究に 200 億円掛けることで、とても大きな成果が出てくるような誤解を与える。研究費は 3 億円なのですね。

【外部専門家】極端気象災害予測研究は、文科省の施策の中で進めている革新プログラムと重複しているのではないか。

【文科省】正確にどのような事業が資料を持ち合わせていないため、改めて回答させていただきたい。 【後日回答】

【外部専門家】気候変動に関連して極端気象災害を重要視すると言われた割には、バランスを取りすぎた予算になっている。気候変動に伴う災害がこれまであまり考えられていなかったとすれば、そこにも思い切って予算をつけたらよいと思う。

【文科省】防災科研のレーダの他、他機関の MP レーダのデータを活用するなど研究資源の有効活用に配慮しつつ被害軽減につながる研究を進めていきたい。

【外部専門家】火山の研究について、気象庁とはどのような連携ができているのか。

【文科省】日本の百あまりある火山のうち、気象庁と大学との協議で、観測対象とすべき 47 火山を指定し、それぞれに一つずつ観測施設を設けて観測を行っている。防災科研は、その中でも特に研究的価値の大きい 16 火山について、気象庁と連携して複数の観測点を配置し進めている。

【外部専門家】モニタリング等で共通して使えるものがあるとの話があったが、具体的に説明して欲しい。

【文科省】地震の観測業務と火山の観測業務は波形をとるという意味で似たところがあり、共通化を進めたいと考えている。

【外部専門家】防災科研の MP レーダ網とは、防災科研がどれくらい持っているのか？また各省庁が導入しているものとの連携は？

【文科省】MP レーダは防災科研が関東に 2 機配置し研究を行ってきた。国土交通省がその成果を活用して、中部、関西などに展開している。防災科研ではそのデータを使わせて頂いて更に精度を向上させるための研究開発も行っている。防災科研で大規模なレーダ網を整備しているわけではない。

【後日回答】

(質問) 極端気象災害に関しては、21 世紀気候変動予測革新プログラムの内容と重複しているのではないか。

(回答) 「21 世紀気候変動予測革新プログラム」では、気候変動によって近未来や 21 世紀末に台風や集中豪雨などの極端な気象現象の頻度や強度の変化について予測する研究等を実施している。一方、防災科学技術研究所では、ゲリラ豪雨などを観測・予測するためのレーダ技術や豪雨により都市がどのように浸水するかをリアルタイムに予測する技術の開発を行っている。

以上